

## Did COVID-19 stress, uncertainty stall progress on anti-smoking

### 概要

COVID-19によって、喫煙という致命的な健康上の問題が発生している。実際に、ワシントンではパンデミックによるストレスや不安などによって、煙草の売上が急増したのだ。禁煙を手助けする電話などのサービスが役に立ちそうな場面であるにも関わらず、ホットラインを通じた州への電話が27%も減少した。そういった様々な事例から、この研究では9-11テロ後を含む元喫煙者の再発と、トラウマ的な出来事を結び付け、COVID-19は禁煙を遅らせたのではないかと、という研究者もいる。一方で、疾病予防センターは、伝染病が喫煙率と関係があると考えるのは早計だ、と述べている。実際に、COVID-19が広がった結果として、喫煙の危険性を認知し始めた喫煙者もいる。そして、中高生の電子タバコ使用率が、コロナ休校によって低下しているというデータもあることから、COVID-19は結果的に禁煙を進展させたのではないかと、という研究者もいる。

### 語彙リスト

Stall：遅らせる

Cancer screenings：がん検診

Disruption：混乱

Coalition：連合

Stimulant：刺激

Traumatic：トラウマの

Relapse：再発

Addiction：中毒

Maelstrom：大騒動

Outbreak：勃発

### その他

何らかの災害に見舞われた直後の喫煙率の変化としては、基本的には上昇傾向にあるようだ。地震などの災害に際し、人間は様々なストレスにさらされることが知られている。すると、薬物などへの依存が増し、結果的に喫煙してしまうのだ。再喫煙に関しても同様であり、災害後には平均1日当たり12.6本も増えたというデータもある。

出典 <https://news.yahoo.co.jp/byline/ishidamasahiko/20200527-00180483/>